

# シリーズ多面的機能支払 熊野・御浜・紀宝

## ～私たちの思い、そして伝える100年先へ～

いないかんきょうかつどうそしき

### Vol.12 井内環境活動組織(紀宝町井内地区)の軌跡

多面的機能支払  
熊野・御浜・紀宝

—美しい里山を守り、次の世代へつなぐ—  
多面的機能支払交付金を活用し、故郷の暮らしを守る活動組織の多様な取り組みは、100年先の地域での暮らしへとつなげるための足跡となっている。本誌では、活動組織の地域に対する思い、今後の展望についてインタビューするシリーズ企画。今回は、紀宝町井内地区で活動する「井内環境活動組織」の南さんにお話を伺った。

## 課題に挑む、 その先にある希望



会計  
南 廣臣 さん

—どのような活動をしていま

南—共同で行う草刈りや水路の管理に対する費用として交付金を活用しています。特に、この夏はとても暑く、草刈り作業ができない日が2カ月も続くと、すごく草が伸びて大変でした。井内地区には、長い堤防があり、一度トラクターで刈った後、草刈り機で刈る作業をしており、作業が大変です。

—草刈りの作業は、特に「苦労

南—堤防以外にも、獣害防止の電気柵の根本下の草刈りは、特に丁寧に行う必要があります。伸びた



【インタビューの様子】

草が柵にあたり、漏電してしまい、柵の役割を果たさないことがあるからです。組織の構成員も高齢化となり、これから先のことを考えると丁寧な維持管理ができるか不安ですが、工夫をしながら進めていきたいです。

—会計の立場として、組織運営

南—会計の仕事は、責任を伴うため、意識を高めて取り組んでいます。そのため立場上、監督業務として作業する仲間に注意をするところもあるので、厳しい一面を見せる時もあります。組織を運営するなかでは、共同活動に対し、交付



【維持活動の様子】

紀宝町の中心部から相野谷川沿いに走ると大里地区の田んぼが雄大に広がっている。しばらくすると、オレンジロードと県道35号線へとつながる三叉路に相野谷小学校が見えてきた。小学校の周りを囲うように、井内地区の田んぼがある。  
9月、すでに稲刈りは終わり、田んぼは静かに次の出番に向けてひと休みしているようであった。  
この井内地区の農村保全に取り組んでいる会計の南さんが出迎えてくれた。

—今年の夏は暑かったですが、収穫はどうでしたか。

南—井内地区は昨年の方が良かったですが、今年も相対的には良かったです。今年は、ミルククイーンを約80アール作付けしました。この品種はもちもちしているのが特長です。他にも、あきたこまちやコシヒカリなどの多様な品種を栽培しています。

—相野谷川沿いは土質が粘質で米どころだとお聞きしました。

南—そういう声が聞けて、とてもありがたいです。しかし、金を活用して日当の支払いなどが可能となるため、活動に参加する動機につながると考えます。工夫次第で色んな活動ができると感じています。

—地区内には小学校があり、子どもたちのにぎやかな声が聞こえますね。

南—小学校とは、毎年、隣の地区で活動している「大里農村環境活動組織・大里第二農村環境活動組織」と一緒に、スイセンの球根を植える景観形成の活動に取り組んでいます。子どもたちと、農村風景の保全活動に関わる機会を持つことができ、楽しく活動ができています。

—今後の思いをお聞かせください。

南—人口減少・高齢化が進むなかで、これからはより地域が一体となり、農村の維持に取り組むことが必要だと考えています。課題を言ったらキリがないですが、前を向いて歩みたいですね。紀宝町神内地区は小学校と連携した田植えや稲刈りの活動に取り組んでいます。この取組のように、この地区でも学校と連携し、子どもたちが農業に触れ合い、農村を守るという経験につながれば良いと思います。



【井内地区の農村風景】

相野谷川沿いは粘質土かもしれないですが、少し離れているあたりに、砂質土なので土壌環境は少し違います。また、米作りには肥料も関係しており、井内地区ではレンゲを肥料とした「レンゲ米」に取り組んでいます。

—組織について教えてください。

南—井内地区は、地元の人ではない耕作者が多いです。私も地区外に住んでおり、井内地区の担い手として耕作しています。兼業農家も多く、共同の維持活動は休日に行うことが多いのが現状です。



取材:三重県熊野農林事務所 山口、西崎 御浜町役場 大谷 紀宝町役場 清水(令和6年9月)  
問い合わせ先:熊野農林事務所 農村基盤室 農村計画課(0597-89-6128)

### ■取材を終えて

水田が広がる相野谷川沿いには、井内環境活動組織の他に、水路系統ごとに多面の組織が活動している。それぞれの組織は、互いに連携しており、情報共有しながら、お互いを高め合いながら活動しているのだ。今後は、将来に向けた課題も共有しながら、紀宝町の米どころである産地を守り、次の世代へとつなげるため、今の世代がもうひと踏ん張りできるよう、ともに楽しく歩幅を合わせて進みたいと感じた。

課題はあるが、農村を守るという歩みを止めない限り、地域の未来は明るく照らされているにちがいない。

組織名	組織 設立年	活動面積	活動メニュー
井内環境活動組織	令和2年	977a(田)	農地維持支払 資源向上支払(共同)

